
Ridoc IO Device Manager Accounting /Lite
機器アドレス帳データ確認用ツール操作手順書

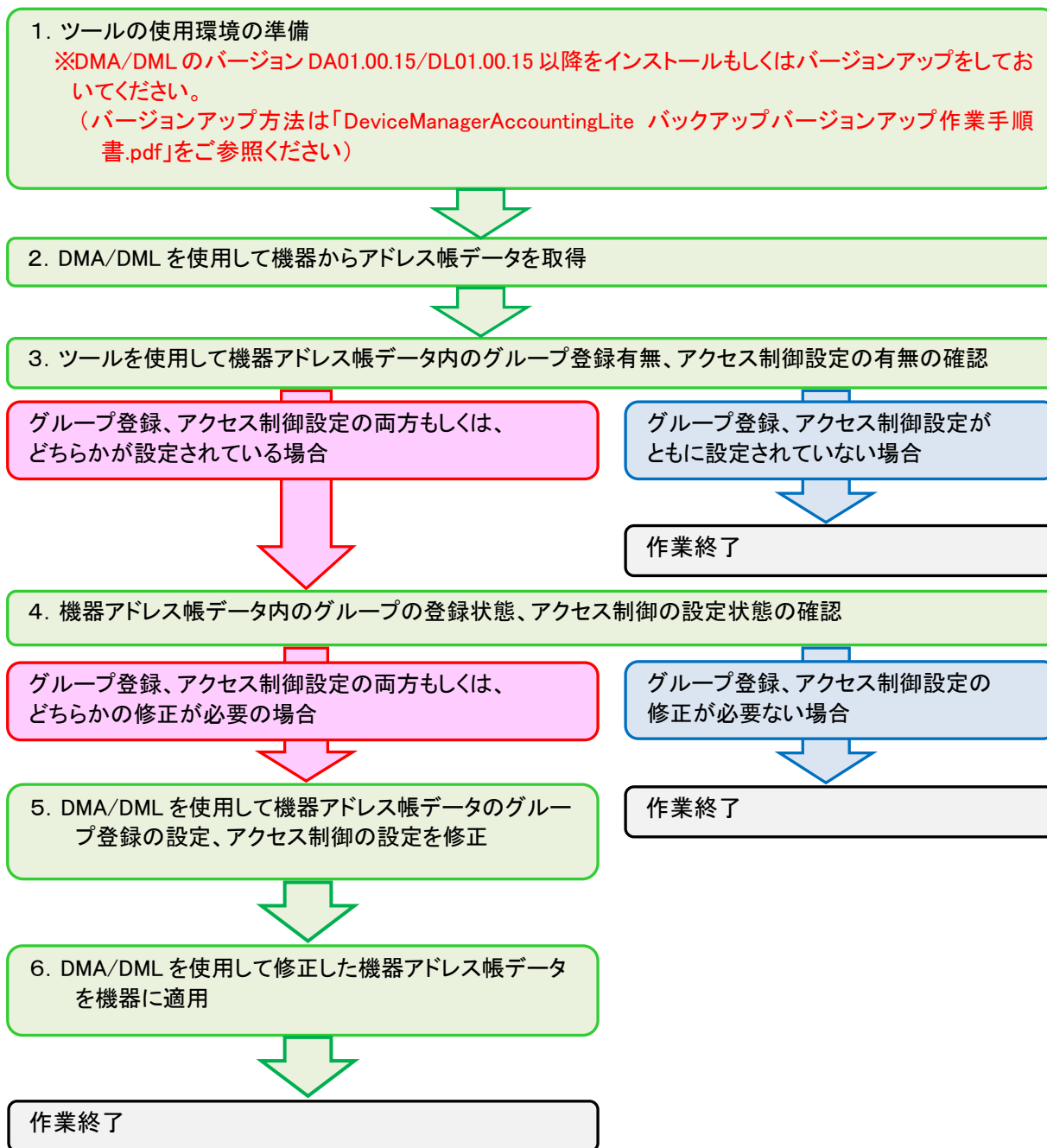
1. 概要

本手順書は、機器アドレス帳データ内のグループ登録の有無とアクセス制御設定の有無を確認するためのツールの操作手順書です。

本手順書に従い、別途 Ridoc IO Device Manager Accounting / Lite (以降、DMA/DML と表現) で機器からアドレス帳データを取得し、出力した機器アドレス帳 CSV ファイルを使用することで、機器アドレス帳データ内のグループ登録の有無とアクセス制御設定の有無の確認をおこないます。

また、必要に応じてDMA/DMLで機器アドレス帳データを修正し、その後、修正した機器アドレス帳データを機器へ適用します。

【作業の流れ】



【用語説明】

■アドレス帳テンプレート

アドレス帳テンプレートとは、ユーザーごとに機器の利用制限を設けたり、カウンターをリセットしたり、宛先(ユーザー/グループ)の情報を編集したりなど、一括で機器のアドレス帳に関する設定変更を行う設定値をまとめたものです。

■グループ宛先

複数の宛先(ユーザー/グループ)をひとつにまとめたものです。
FAXやスキャナ送信時に複数の相手先を簡単に指定できる機能です。

■アクセス制御設定

以下2つのアクセス制御の設定を指しています。

①アドレス帳登録情報へのアクセス権

アドレス帳のデータにアクセス権を設定し、その宛先が使用できるユーザーを制限することができます。
たとえば、ユーザーごとに機器にログインした際、FAX やスキャナ送信時にどの宛先(ユーザー/グループ)を操作パネルに表示するか表示しないなどを制御することができます。

②蓄積した文書へのアクセス権

複合機に蓄積した文書は、蓄積したユーザーがアクセス権限を有しており、他のユーザーに蓄積した文書へのアクセス権を設定することが可能です。

2. 事前準備

本ツールを使用するための準備をおこないます。

注意!!

DMA/DML のバージョン DA01.00.15/DL01.00.15 以降をインストールもしくはバージョンアップをしておいてください。

(バージョンアップ方法は「DeviceManagerAccountingLite バックアップバージョンアップ作業手順書.pdf」をご参照ください)

本ツールが DMA/DML のインストールフォルダー配下の tools フォルダーに以下構成で存在することを確認します。

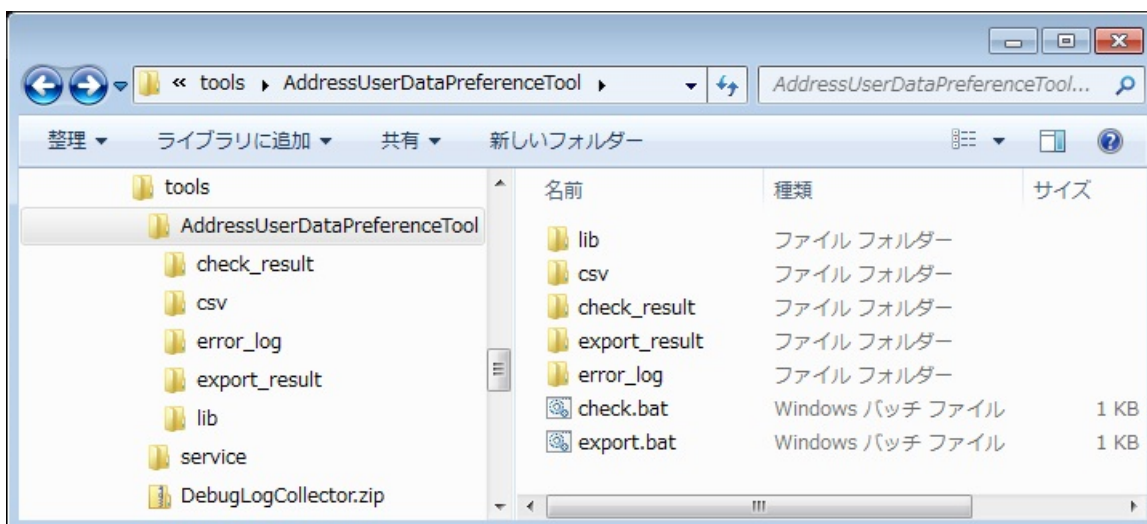
※以下はデフォルトインストール時のパスです。インストール環境に合わせて読み替えてください。

C:¥Program files¥Ricoh¥MDM

■フォルダー構成

DMA/DML インストールフォルダー

- └ [tools]
 - └ [AddressUserDataPreferenceTool]
 - └ [lib] : ツール本体モジュール格納フォルダー
 - └ [csv] : 機器アドレス帳データ(CSV ファイル)の保存用フォルダー
 - └ [check_result] : 「check.bat」の実行結果を出力するフォルダー
 - └ [export_result] : 「export.bat」の実行結果を出力するフォルダー
 - └ [error_log] : ツールの実行結果の失敗ログを出力するフォルダー
 - └ check.bat : 確認用バッチファイル
 - └ export.bat : エクスポート用バッチファイル



注意!!

上記フォルダー構成を変更しないでください。変更した場合、ツールの動作は保証できません。

3. 機器からアドレス帳を取得する

①DMA/DML を起動し、「かんたん操作」をクリックします。

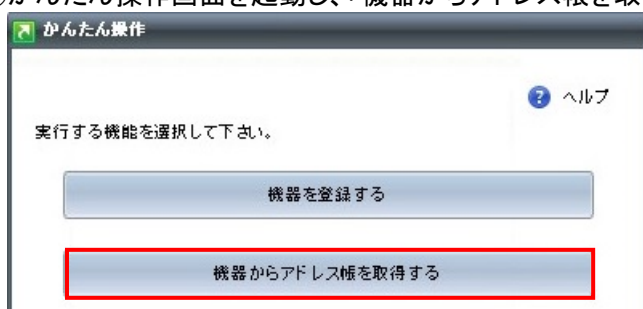


★補足

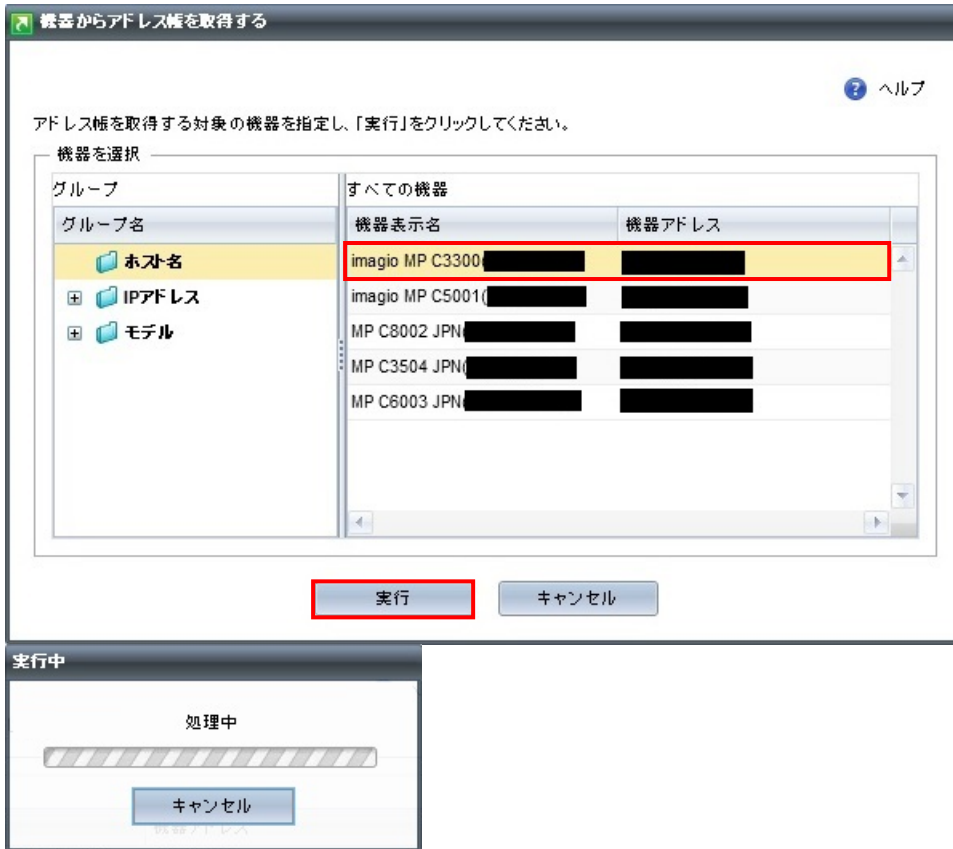
DMA/DML 起動時にパスワードの入力画面が表示された場合は、パスワードを入力して「ログイン」をクリックしてください。



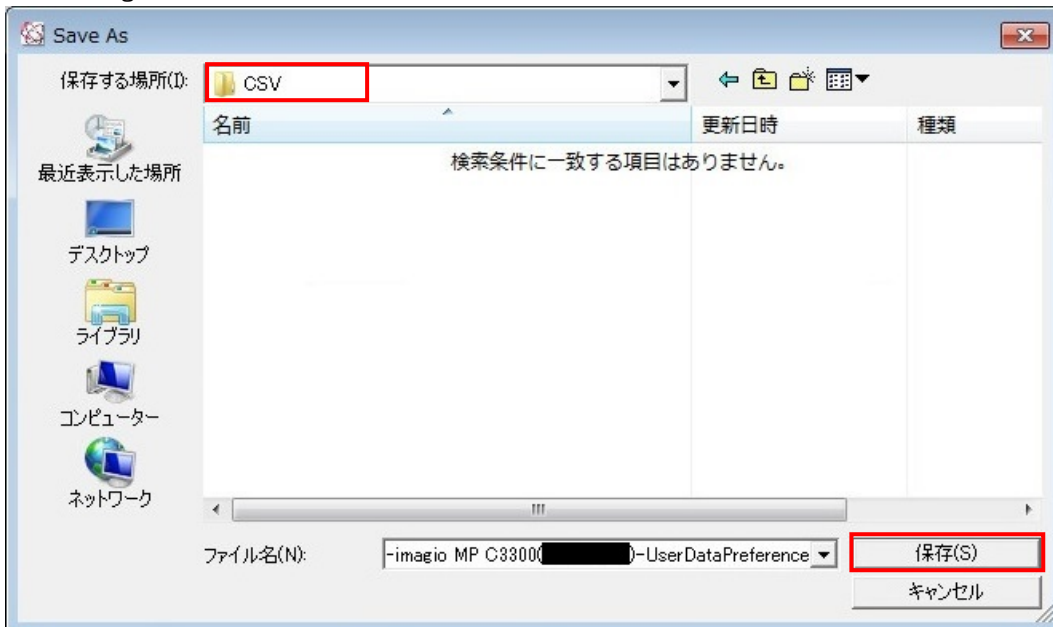
②かんたん操作画面を起動し、「機器からアドレス帳を取得する」をクリックします。



③機器を選択し、「実行」をクリックすると「実行中」画面が表示されます。



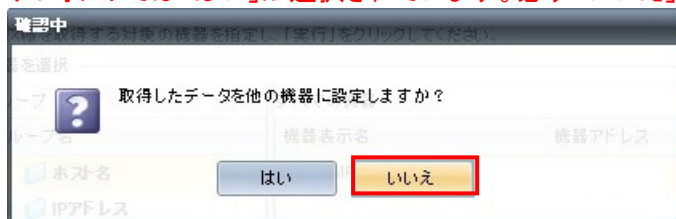
④CSV ファイルの保存先として以下のフォルダーを指定し「保存」をクリックします。
 ※以下はデフォルトインストール時のパスです。インストール環境に合わせて読み替えてください。
 C:\Program files\Ricoh\MDM\tools\AddressUserDataPreferenceTool\CSV



⑤「確認中」画面では、「いいえ」をクリックします。

注意!!

デフォルトでは「はい」が選択されています。必ず「いいえ」をクリックしてください。

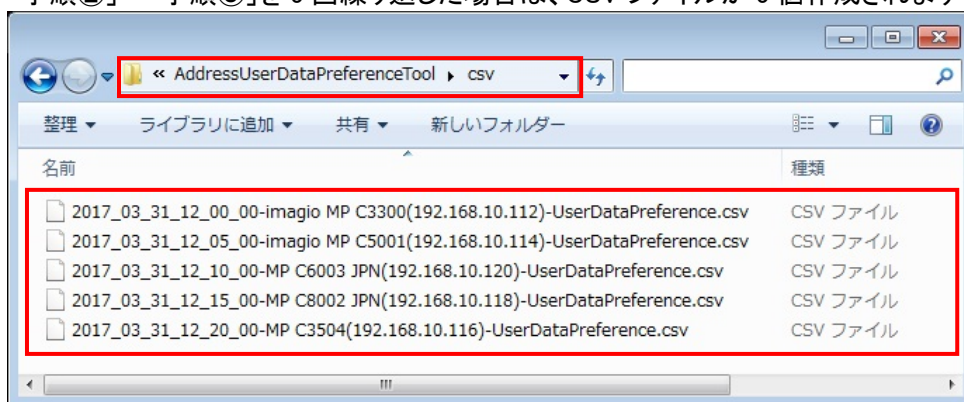


⑥「手順②」～「手順⑤」を DMA/DML に登録されている全ての複合機に対して繰り返し実施します。

⑦「手順④」で指定した CSV フォルダーに CSV ファイルが作成されていることを確認します。

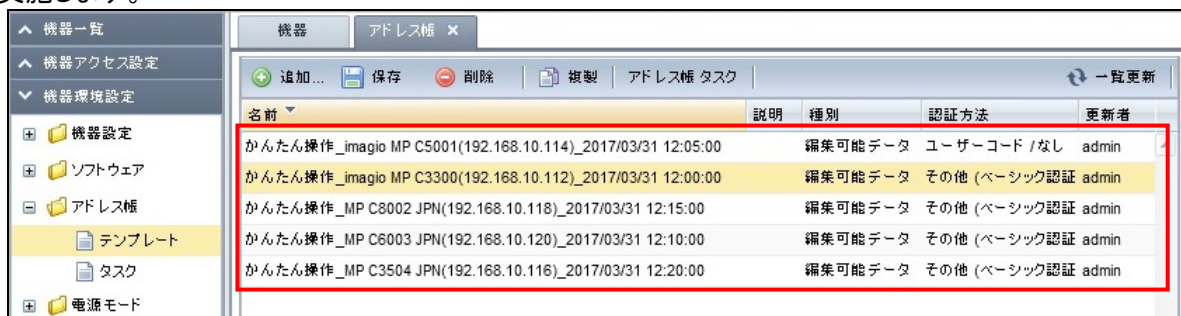
例>

「手順②」～「手順⑤」を 5 回繰り返した場合は、CSV ファイルが 5 個作成されます。



★補足

CSV ファイルが作成されると同時に DMA/DML 上に同じ個数のアドレス帳テンプレートが作成されます。グループ設定や宛先保護、文書保護設定の修正は、この作成されたアドレス帳テンプレートを使用して実施します。



4. 機器アドレス帳データのチェック

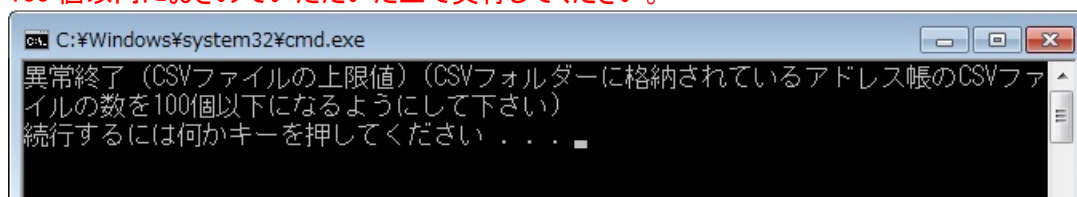
機器から取得したアドレス帳データ(CSV ファイル)を使用して、機器アドレス帳内にグループやアクセス制御が設定されているかのチェックをおこないます。

注意!!

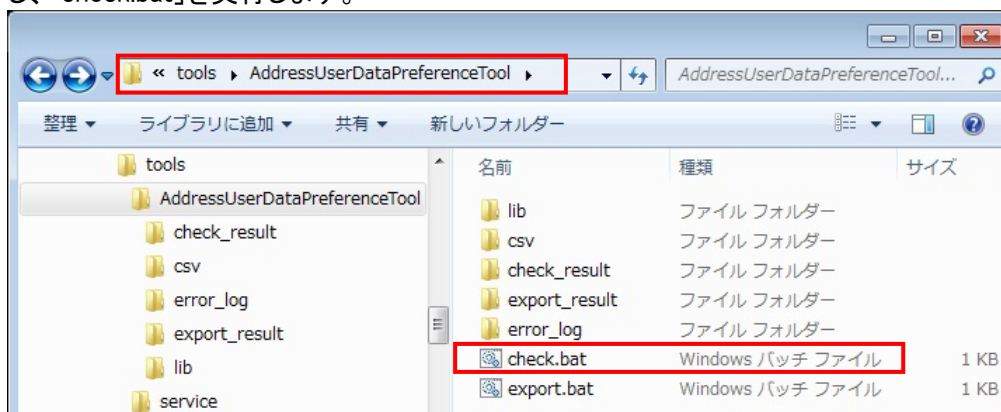
一度にチェックできる CSV ファイルの数は、100 個までとなります。

101 個以上の CSV ファイルが存在している状態でチェックを実施した場合、異常終了(CSV ファイルの上限値)となり実行できません。

CSVフォルダー内に101個以上のCSVファイルが存在している場合は、別のフォルダーに移動させるなど、100個以内におさめていただいた上で実行してください。



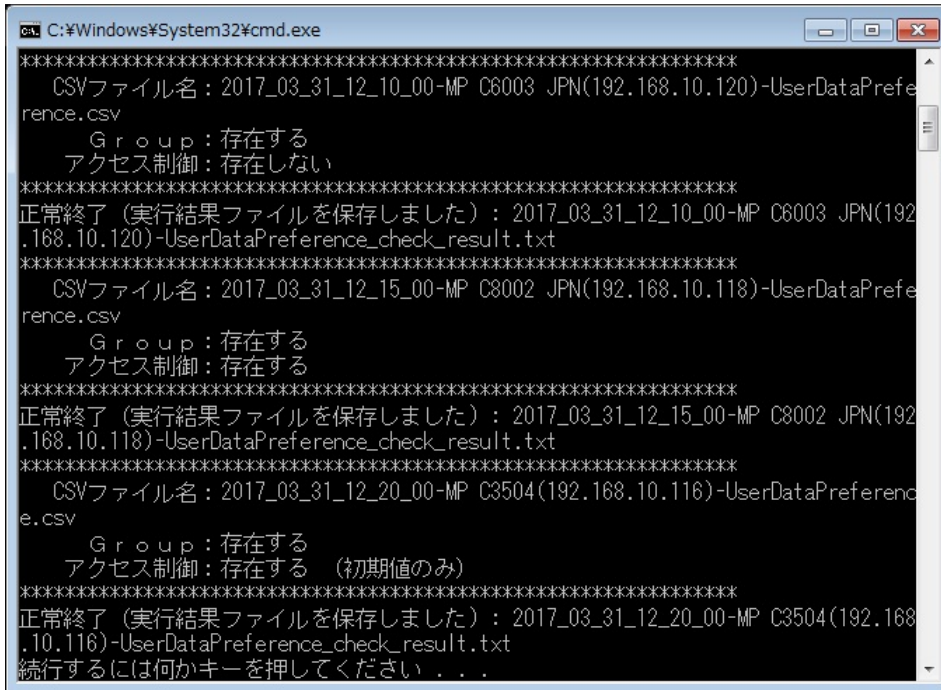
- ① エクスプローラで[(インストールフォルダー)¥tools¥AddressUserDataPreferenceTool]フォルダーに移動し、「check.bat」を実行します。



注意!!

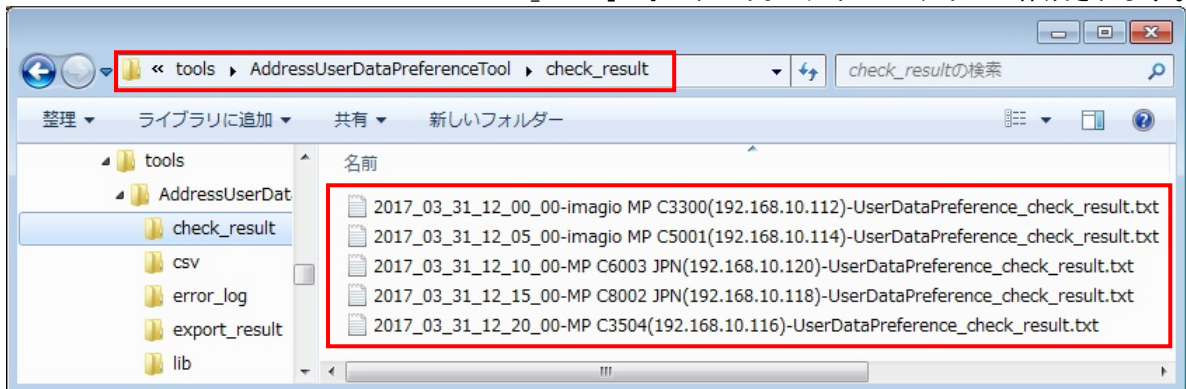
「check.bat」を同時に複数実行しないでください。複数実行した場合は処理が失敗する恐れがあります。連続して実行する場合は、表示されているコマンド プロンプト画面を閉じていただいた後に実行してください。

②チェック結果がコマンドプロンプト画面に表示されます。

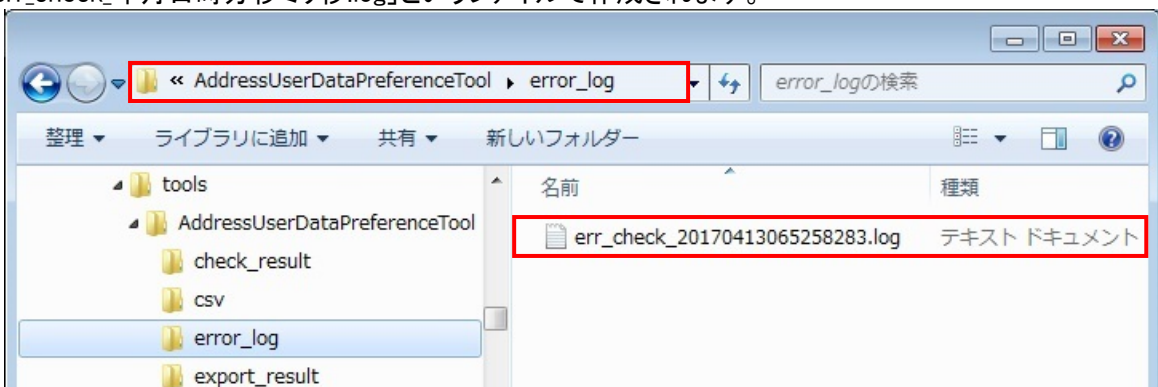


★補足

- ・コマンドプロンプト画面に表示された情報と同じ内容の情報が[(インストールフォルダー)¥tools¥AddressUserDataPreferenceTool¥check_result]フォルダー内にテキストファイルで作成されます。



- ・「check.bat」の実行でエラーが発生した場合、コマンドプロンプト画面に表示された情報と同じ内容の情報が[(インストールフォルダー)¥tools¥AddressUserDataPreferenceTool¥error_log]フォルダー内に「err_check_年月日時分秒ミリ秒.log」というファイルで作成されます。



③チェック結果の詳細の内容によって以降の手順を実施してください。

■ Group/アクセス制御がともに「存在しない」と表示された場合

または、Group に「存在しない」、アクセス制御に「存在する(初期値のみ)」と表示された場合
事象発生 の条件に該当しません。

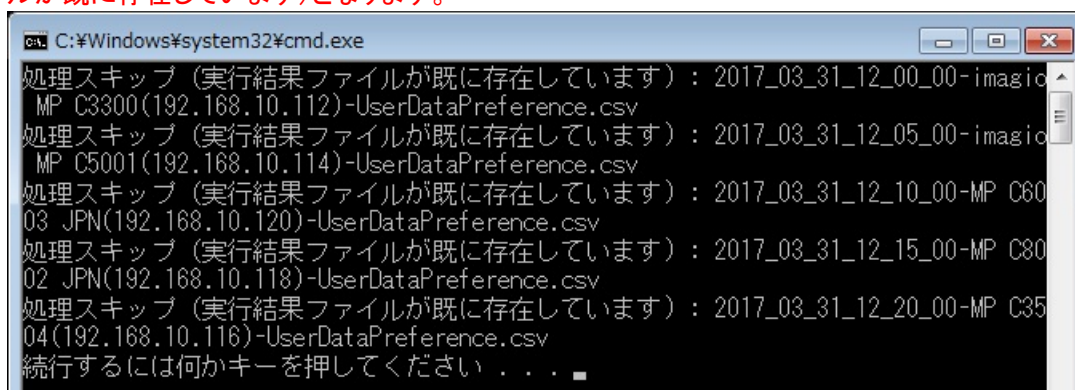
以降の手順の実施は必要ありません。

■ Group /アクセス制御のどちらかに「存在する」と表示された場合

事象発生 の条件に該当しているため、以降の手順を実施してください。

注意!!

一度、チェックした CSV ファイルを再度チェックする場合は、[(インストールフォルダー)¥tools¥AddressUserDataPreferenceTool¥check_result]フォルダー内からチェック対象となる CSV ファイルのファイル名を含んだテキストファイルを削除(もしくは別の場所に移動)して実施してください。テキストファイルを削除(もしくは別の場所に移動)せずに実施した場合、処理スキップ(実行結果ファイルが既に存在しています)となります。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_00_00-imagio
MP C3300(192.168.10.112)-UserDataPreference.csv
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_05_00-imagio
MP C5001(192.168.10.114)-UserDataPreference.csv
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_10_00-MP C60
03 JPN(192.168.10.120)-UserDataPreference.csv
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_15_00-MP C80
02 JPN(192.168.10.118)-UserDataPreference.csv
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_20_00-MP C35
04(192.168.10.116)-UserDataPreference.csv
続行するには何かキーを押してください . . . ■
```

5. 機器アドレス帳データの設定内容の確認と修正

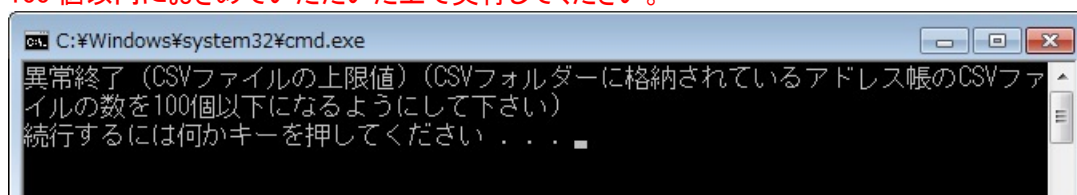
チェックした各 CSV ファイル内のグループ/アクセス制御の設定内容を CSV ファイルに書き出します。

注意!!

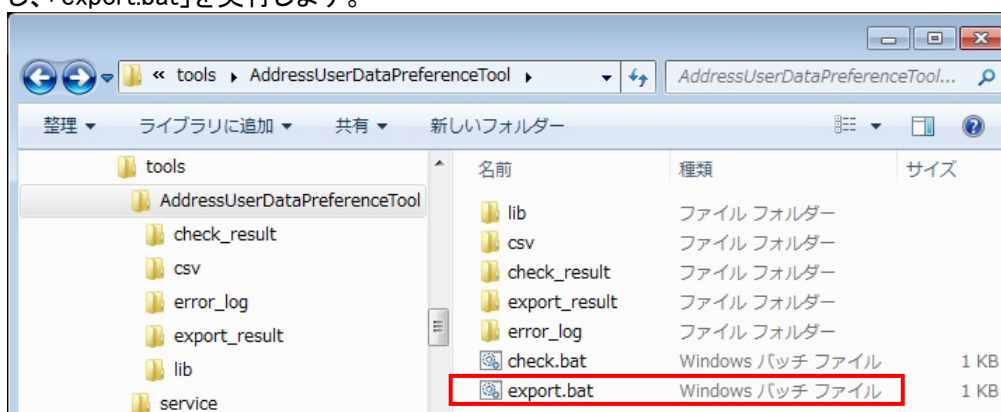
一度に処理できる CSV ファイルの数は、100 個までとなります。

101 個以上の CSV ファイルが存在している状態で処理を実施した場合、異常終了 (CSV ファイルの上限値) となり実行できません。

CSV フォルダー内に 101 個以上の CSV ファイルが存在している場合は、別のフォルダーに移動させるなど、100 個以内におさめていただいた上で実行してください。



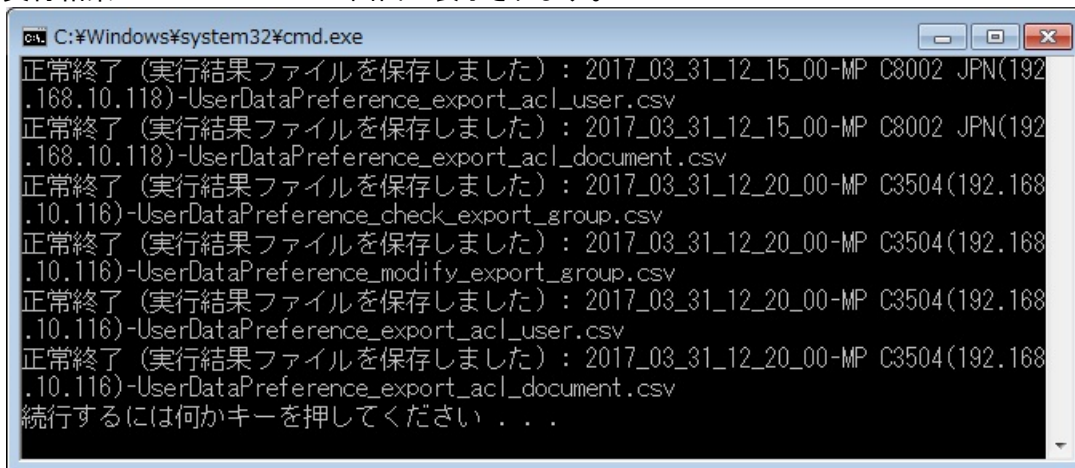
- ① エクスプローラで [(インストールフォルダ)¥tools¥AddressUserDataPreferenceTool] フォルダーに移動し、「export.bat」を実行します。



注意!!

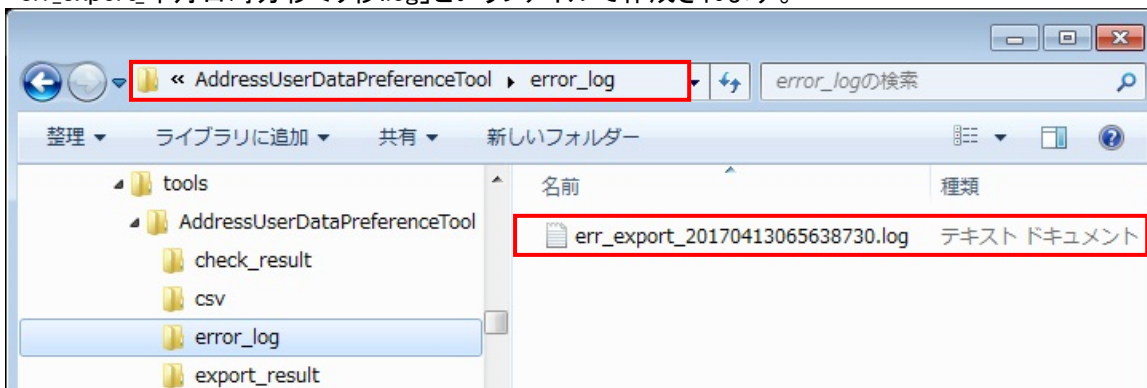
「export.bat」を同時に複数実行しないでください。複数実行した場合は処理が失敗する恐れがあります。連続して実行する場合は、表示されているコマンド プロンプト画面を閉じていただいた後に実行してください。

②実行結果がコマンドプロンプト画面に表示されます。

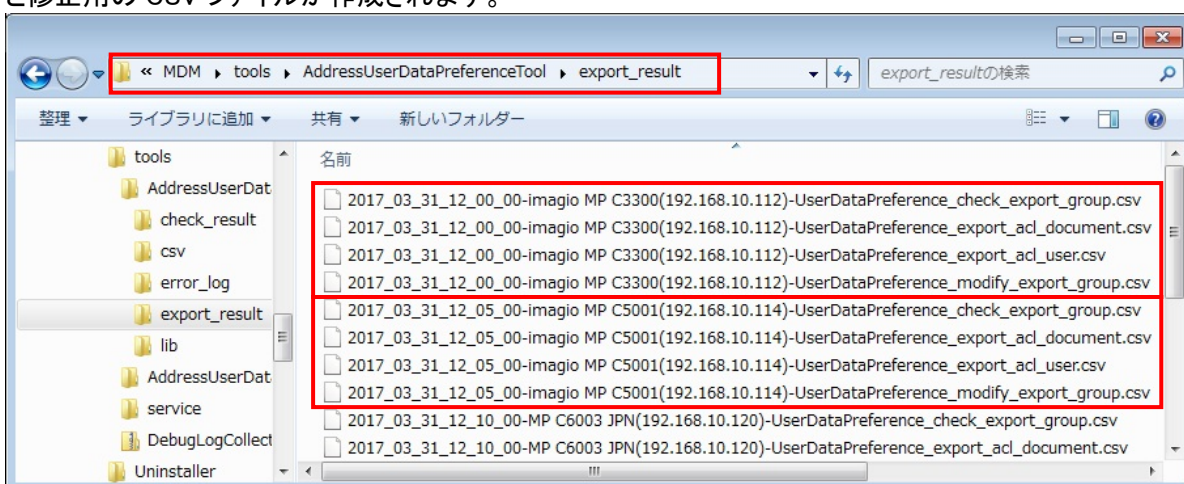


★補足

「export.bat」の実行でエラーが発生した場合、コマンドプロンプト画面に表示された情報と同じ内容の情報が[(インストールフォルダー)¥tools¥AddressUserDataPreferenceTool¥error_log]フォルダー内に「err_export_年月日時分秒ミリ秒.log」というファイルで作成されます。



③[(インストールフォルダー)¥tools¥AddressUserDataPreferenceTool¥export_result]フォルダー内に確認と修正用の CSV ファイルが作成されます。



【確認と修正用の CSV ファイル情報】

[(インストールフォルダー)¥tools¥AddressUserDataPreferenceTool¥CSV]フォルダー内に保存した CSV ファイル 1 つにつき、4 つの CSV ファイルが作成されます。

- **グループ確認用の CSV ファイル** (CSV ファイル名_check_export_group.csv)
各グループごとに設定されているメンバー(ユーザー/グループ)の情報の一覧が出力されます。
この CSV ファイルは、各グループに設定されているメンバーが意図した設定になっているかの確認用に使用します。
- **グループ修正用の CSV ファイル** (CSV ファイル名_modify_export_group.csv)
各ユーザー/グループの情報と所属しているグループの情報の一覧が出力されます。
この CSV ファイルは、各ユーザー/グループが本来の所属されているべきグループ情報の添削用を使用します。
また、この CSV ファイルを基にして DMA/DML 上で修正操作をおこないます。
- **アクセス制御(宛先保護)確認用の CSV ファイル** (CSV ファイル名_export_acl_user.csv)
各ユーザー/グループごとに設定されている宛先のアクセス制御の情報の一覧が出力されます。
この CSV ファイルは、各ユーザー/グループの宛先のアクセス制御の設定が意図した設定になっているかの確認用に使用します。
- **アクセス制御(文書保護)確認用の CSV ファイル** (CSV ファイル名_export_acl_document.csv)
各ユーザー/グループごとに設定されている文書のアクセス制御の情報の一覧が出力されます。
この CSV ファイルは、各ユーザー/グループの文書のアクセス制御の設定が意図した設定になっているかの確認用に使用します。

注意!!

一度、「export.bat」を実行した CSV ファイルに対して再度「export.bat」を実行する場合は、[(インストールフォルダー)¥tools¥AddressUserDataPreferenceTool¥export_result]フォルダー内からチェック対象となる CSV ファイルのファイル名を含んだ CSV ファイル(4つ)を削除(もしくは別の場所に移動)して実施してください。

CSV ファイル(4つ)を削除(もしくは別の場所に移動)せずに実施した場合、処理スキップ(実行結果ファイルが既に存在しています)となります。

```
C:\Windows\system32\cmd.exe
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_15_00-MP C8002 JPN(192.168.10.118)-UserDataPreference_export_acl_user.csv
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_15_00-MP C8002 JPN(192.168.10.118)-UserDataPreference_export_acl_document.csv
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_20_00-MP C3504 (192.168.10.116)-UserDataPreference_check_export_group.csv
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_20_00-MP C3504 (192.168.10.116)-UserDataPreference_modify_export_group.csv
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_20_00-MP C3504 (192.168.10.116)-UserDataPreference_export_acl_user.csv
処理スキップ (実行結果ファイルが既に存在しています) : 2017_03_31_12_20_00-MP C3504 (192.168.10.116)-UserDataPreference_export_acl_document.csv
続行するには何かキーを押してください . . . ■
```

5.1. グループ設定の確認

- ①書き出されたグループ確認用の各 CSV ファイル(CSV ファイル名_check_export_group.csv)を開き、グループに設定されているメンバーが意図した設定になっているかを確認します。

以下の確認例では 2 つの例を挙げていますが、すべてのグループについて確認してください。

確認例>

- ・[サポートグループ 1]のメンバーには[理工太郎]というユーザーと[サポートグループ 2]というグループが設定されています。この設定が正しいかを確認します。※1
- ・[営業グループ]のメンバーには[理工太郎]というユーザーと[山田太郎]というユーザーが設定されています。この設定が正しいかを確認します。※2

	A	B	C	D	E	
1	グループ:登録番号	グループ:名前	メンバー:登録番号	メンバー:名前	メンバー:エントリータイプ	
2	[450]	[サポートグループ1]	[1]	[理工太郎]	[U]	※1
3	[450]	[サポートグループ1]	[451]	[サポートグループ2]	[G]	
4	[451]	[サポートグループ2]	[1]	[理工太郎]	[U]	
5	[451]	[サポートグループ2]	[2]	[理工花子]	[U]	
6	[704]	[営業グループ]	[1]	[理工太郎]	[U]	※2
7	[704]	[営業グループ]	[703]	[山田太郎]	[U]	
8	[804]	[開発グループ]	[801]	[大阪来太]	[U]	
9	[804]	[開発グループ]	[802]	[有鷲時音]	[U]	
10	[804]	[開発グループ]	[803]	[John Smith]	[U]	
11	[1004]	[生産グループ]	[1001]	[理光一郎]	[U]	
12	[1004]	[生産グループ]	[1002]	[理光二郎]	[U]	
13	[1004]	[生産グループ]	[1003]	[理光三郎]	[U]	
14	[3004]	[人事グループ]	[3001]	[東京銀座]	[U]	
15	[3004]	[人事グループ]	[3002]	[大阪難波]	[U]	
16	[3004]	[人事グループ]	[3003]	[名古屋名取]	[U]	
17	[5004]	[庶務グループ]	[5001]	[佐藤はると]	[U]	
18	[5004]	[庶務グループ]	[5002]	[鈴木ゆな]	[U]	
19	[5004]	[庶務グループ]	[5003]	[大翔]	[U]	
20	[5004]	[庶務グループ]	[5004]	[庶務グループ]	[G]	
21		[未所属]	[3]	[松坂大輔]	[U]	
22		[未所属]	[450]	[サポートグループ1]	[G]	
23		[未所属]	[701]	[豊橋太郎]	[U]	
24		[未所属]	[702]	[田宮一郎]	[U]	
25		[未所属]	[704]	[営業グループ]	[G]	
26		[未所属]	[804]	[開発グループ]	[G]	
27		[未所属]	[1004]	[生産グループ]	[G]	
28		[未所属]	[3004]	[人事グループ]	[G]	
29		[未所属]	[6001]	[一休一郎]	[U]	
30		[未所属]	[6002]	[経理グループ]	[G]	

- ②グループの設定が意図した設定になっている場合、グループの設定の対処の必要はありません。

グループの設定が意図した設定になっていない場合、手順③を実施してください。

③お客様に本来の意図したグループ設定の情報をご確認いただき、書き出された修正用の各 CSV ファイル(CSV ファイル名_modify_export_group.csv)に記入してください。

修正例>

- ・[理工花子]が、本来[サポートグループ 2]と[営業グループ]のメンバーである場合、[理工花子]と[営業グループ]の組み合わせの設定値(行)を追加挿入します。※1
- ・[佐藤はると]が、本来どこのグループにも属していない場合、[佐藤はると]のグループの設定値(グループ:登録番号、グループ:名前)を削除します。※2
- ・[一休一郎]が、本来[開発グループ]のメンバーである場合、[一休一郎]のグループの設定値(グループ:登録番号、グループ:名前)に記入します。※3

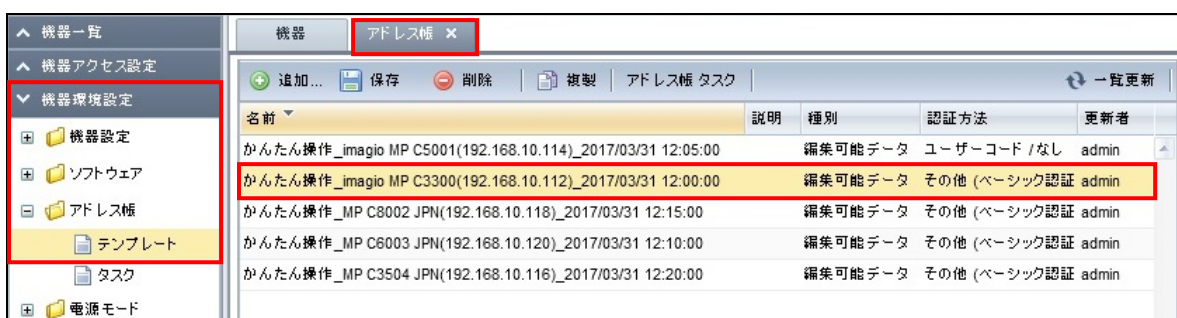
	A	B	C	D	E	
1	メンバー:登録番号	メンバー:名前	メンバー:エントリータイプ	グループ:登録番号	グループ:名前	
2	[1]	[理工太郎]	[U]	[450]	[サポートグループ1]	
3	[1]	[理工太郎]	[U]	[451]	[サポートグループ2]	
4	[1]	[理工太郎]	[U]	[704]	[営業グループ]	
5	[2]	[理工花子]	[U]	[451]	[サポートグループ2]	
6	[2]	[理工花子]	[U]	[704]	[営業グループ]	※1
7	[3]	[松坂大輔]	[U]			
8	[450]	[サポートグループ1]	[G]			
9	[451]	[サポートグループ2]	[G]	[450]	[サポートグループ1]	
10	[701]	[豊橋太郎]	[U]			
11	[702]	[田宮一郎]	[U]			
12	[703]	[山田太郎]	[U]	[704]	[営業グループ]	
13	[704]	[営業グループ]	[G]			
14	[801]	[大阪来太]	[U]	[804]	[開発グループ]	
15	[802]	[有喜時音]	[U]	[804]	[開発グループ]	
16	[803]	[John Smith]	[U]	[804]	[開発グループ]	
17	[804]	[開発グループ]	[G]			
18	[1001]	[理光一郎]	[U]	[1004]	[生産グループ]	
19	[1002]	[理光二郎]	[U]	[1004]	[生産グループ]	
20	[1003]	[理光三郎]	[U]	[1004]	[生産グループ]	
21	[1004]	[生産グループ]	[G]			
22	[3001]	[東京銀座]	[U]	[3004]	[人事グループ]	
23	[3002]	[大阪難波]	[U]	[3004]	[人事グループ]	
24	[3003]	[名古屋名取]	[U]	[3004]	[人事グループ]	
25	[3004]	[人事グループ]	[G]			
26	[5001]	[佐藤はると]	[U]			※2
27	[5002]	[鈴木ゆな]	[U]	[5004]	[庶務グループ]	
28	[5003]	[大翔]	[U]	[5004]	[庶務グループ]	
29	[5004]	[庶務グループ]	[G]	[5004]	[庶務グループ]	
30	[6001]	[一休一郎]	[U]	[804]	[開発グループ]	※3
31	[6002]	[経理グループ]	[G]			

5.2. グループ設定の修正

前項「手順③」で作成いただいた修正用の各 CSV ファイル(CSV ファイル名_modify_export_group.csv)を参照し、DMA/DML 上のアドレス帳テンプレートでグループの設定を修正します。

①DMA/DML を起動します。

②左ペインのアコーディオンメニューで「機器環境設定」-「アドレス帳」-「テンプレート」を開き、「アドレス帳」タブの中から修正するアドレス帳テンプレートを選択します。




③「アドレス情報一覧」タブを表示し、グループの設定を修正するユーザー/グループを選択します。



④「グループ一覧」タブを表示し、グループの設定の修正をします。

手順例 1>

[理工花子]は、[サポートグループ 2]と[営業グループ]のメンバーですので、選択グループ枠に表示されていない[営業グループ]を追加します。

1. 非選択グループ枠内の[営業グループ]を選択し、をクリックします。

登録番号	グループ	キー表示名
	サポートグループ2	サポートG2

登録番号	グループ	キー表示名
	サポートグループ1	サポートG1
	営業グループ	営業グループ
	開発グループ	開発グループ

2. 選択グループ枠内に[営業グループ]が表示されたことを確認後、「保存」をクリックします。




登録番号	グループ	キー表示名
	サポートグループ2	サポートG2
	営業グループ	営業グループ

登録番号	グループ	キー表示名
	サポートグループ1	サポートG1
	開発グループ	開発グループ
	生産グループ	生産グループ

手順例 2>

[佐藤はると]は、どこのグループにも属していませんので、選択グループ枠に表示されている[庶務グループ]を削除します。

1. 選択グループ枠内の[庶務グループ]を選択し、をクリックします。




2. 選択グループ枠内の[庶務グループ]が表示されていないことを確認後、「保存」をクリックします。



手順例 3>

[一休一郎]は、[開発グループ]のメンバーですので、選択グループ枠に表示されていない[開発グループ]を追加します。

1. 非選択グループ枠内の[開発グループ]を選択し、をクリックします。



テンプレート

一般 設定 アドレス情報一覧

ユーザー: グループ 保存 削除 すべての上 すべての中 すべてを削除 データをC

登録番号	名前	アドレス情報種別	キー表示名
	一休一郎	ユーザー	一休一郎

使用できる機能 メールファクス フォルダー 認証保護 グループ一覧 ユーザー別カウンターリセット

設定する

選択グループ

登録番号	グループ	キー表示名
表示できる項目はありません。		

非選択グループ

登録番号	グループ	キー表示名
	営業グループ	営業グループ
	開発グループ	開発グループ
	生産グループ	生産グループ

2. 選択グループ枠内に[開発グループ]が表示されたことを確認後、「保存」をクリックします。



テンプレート

一般 設定 アドレス情報一覧

ユーザー: グループ 保存 削除 すべての上 すべての中 すべてを削除 データをC

登録番号	名前	アドレス情報種別	キー表示名
	一休一郎	ユーザー	一休一郎

使用できる機能 メールファクス フォルダー 認証保護 グループ一覧 ユーザー別カウンターリセット

設定する

選択グループ

登録番号	グループ	キー表示名
	開発グループ	開発グループ

非選択グループ

登録番号	グループ	キー表示名
	営業グループ	営業グループ
	生産グループ	生産グループ
	人事グループ	人事グループ

5.3. 宛先保護設定の確認

- ①書き出されたアクセス制御(宛先保護)確認用の各 CSV ファイル(CSV ファイル名_export_acl_user.csv)を開き、ユーザー/グループに設定されている宛先保護の設定が意図した設定になっているかを確認します。

※アクセス制御(E 列)の設定値の[read-only]は閲覧、[read-write]は編集、[削除]は編集/削除、[フルコントロール]はフルコントロールを意味します。

※初期状態では宛先保護の設定は空です。設定は何もされておりません。

確認例>

- ・[理工太郎]には宛先保護の設定がされていません。この設定が正しいかを確認します。※1
- ・[人事グループ]にはユーザー[東京銀座]でアクセス制御[read-only]、ユーザー[大阪難波]でアクセス制御[read-write]、ユーザー[名古屋名取]でアクセス制御[削除]の設定がされています。この設定が正しいかを確認します。※2

	A	B	C	D	E
1	エントリー:登録番号	エントリー:名前	エントリー:エントリータイプ	宛先保護設定 アクセス制御一覧:名前	宛先保護設定 アクセス制御一覧:アクセス制御
2	[1]	[理工太郎]	[U]		
3	[2]	[理工花子]	[U]		
4	[3]	[松坂大輔]	[U]		
5	[450]	[サポートグループ1]	[G]	[サポートグループ1]	[read-only]
6	[451]	[サポートグループ2]	[G]	[理工太郎]	[削除]
7	[701]	[豊橋太郎]	[U]		
8	[702]	[田宮一郎]	[U]		
9	[703]	[山田太郎]	[U]	すべてのユーザー	[read-only]
10	[704]	[営業グループ]	[G]		
11	[801]	[大阪来太]	[U]		
12	[802]	[有馬時音]	[U]		
13	[803]	[John Smith]	[U]		
14	[804]	[開発グループ]	[G]	[開発グループ]	[read-only]
15	[1001]	[理光一郎]	[U]		
16	[1002]	[理光二郎]	[U]		
17	[1003]	[理光三郎]	[U]		
18	[1004]	[生産グループ]	[G]		
19	[3001]	[東京銀座]	[U]		
20	[3002]	[大阪難波]	[U]		
21	[3003]	[名古屋名取]	[U]		
22	[3004]	[人事グループ]	[G]	[東京銀座]	[read-only]
23	[3004]	[人事グループ]	[G]	[大阪難波]	[read-write]
24	[3004]	[人事グループ]	[G]	[名古屋名取]	[削除]
25	[5001]	[佐藤はると]	[U]	[佐藤はると]	[フルコントロール]
26	[5002]	[鈴木ゆな]	[U]	[佐藤はると]	[削除]
27	[5003]	[大翔]	[U]	[鈴木ゆな]	[read-write]
28	[5004]	[庶務グループ]	[G]	[庶務グループ]	[フルコントロール]
29	[6001]	[一休一郎]	[U]	[理工太郎]	[read-only]
30	[6001]	[一休一郎]	[U]	[田宮一郎]	[read-only]

- ②宛先保護の設定が意図した設定になっている場合、宛先保護の設定の対処の必要はありません。

宛先保護の設定が意図した設定になっていない場合、「5.5.宛先保護、文書保護設定の修正」を実施してください。

5.4. 文書保護設定の確認

- ①書き出されたアクセス制御(文書保護)確認用の各 CSV ファイル(CSV ファイル名 _export_acl_document.csv)を開き、ユーザー/グループに設定されている文書保護の設定が意図した設定になっているかを確認します。

※アクセス制御(E列)の設定値の[read-only]は閲覧、[read-write]は編集、[削除]は編集/削除、[フルコントロール]はフルコントロールを意味します。

確認例>

- ・[理工太郎]の文書保護設定には、ユーザー[理工太郎]でアクセス制御[read-only]の設定がされています。この設定が正しいかを確認します。※1
- ・[鈴木ゆな]の文書保護設定には、ユーザー[鈴木ゆな]でアクセス制御[read-only]、ユーザー[佐藤はると]でアクセス制御[削除]の設定がされています。この設定が正しいかを確認します。※2

	A	B	C	D	E
1	エントリー:登録番号	エントリー:名前	エントリー:エントリータイプ	文書保護設定 アクセス制御一覧:名前	文書保護設定 アクセス制御一覧:アクセス制御
2	[1]	[理工太郎]	[U]	[理工太郎]	[read-only]
3	[2]	[理工花子]	[U]	[理工花子]	[read-only]
4	[3]	[松坂大輔]	[U]	[松坂大輔]	[read-only]
5	[450]	[サポートグループ1]	[G]	[サポートグループ1]	[read-only]
6	[451]	[サポートグループ2]	[G]	[サポートグループ2]	[read-only]
7	[701]	[豊橋太郎]	[U]	[豊橋太郎]	[read-only]
8	[702]	[田宮一郎]	[U]	[田宮一郎]	[read-only]
9	[703]	[山田太郎]	[U]	[山田太郎]	[read-only]
10	[704]	[営業グループ]	[G]	[営業グループ]	[read-only]
11	[801]	[大阪来太]	[U]	[大阪来太]	[read-only]
12	[802]	[有鷲時音]	[U]	[有鷲時音]	[read-only]
13	[803]	[John Smith]	[U]	[John Smith]	[read-only]
14	[804]	[開発グループ]	[G]	[開発グループ]	[read-only]
15	[1001]	[理光一郎]	[U]	[理光一郎]	[read-only]
16	[1002]	[理光二郎]	[U]	[理光二郎]	[read-only]
17	[1003]	[理光三郎]	[U]	[理光三郎]	[read-only]
18	[1004]	[生産グループ]	[G]	[生産グループ]	[read-only]
19	[3001]	[東京銀座]	[U]	[東京銀座]	[read-only]
20	[3002]	[大阪難波]	[U]	[大阪難波]	[read-only]
21	[3003]	[名古屋名取]	[U]	[名古屋名取]	[read-only]
22	[3004]	[人事グループ]	[G]	[人事グループ]	[read-only]
23	[5001]	[佐藤はると]	[U]	[佐藤はると]	[read-only]
24	[5002]	[鈴木ゆな]	[U]	[鈴木ゆな]	[read-only]
25	[5002]	[鈴木ゆな]	[U]	[佐藤はると]	[削除]
26	[5003]	[大翔]	[U]	[大翔]	[read-only]
27	[5003]	[大翔]	[U]	[鈴木ゆな]	[read-write]
28	[5004]	[庶務グループ]	[G]	[庶務グループ]	[read-only]
29	[6001]	[一休一郎]	[U]	すべてのユーザー	[read-only]
30	[6001]	[一休一郎]	[U]	[サポートグループ1]	[read-only]

- ②文書保護の設定が意図した設定になっている場合、文書保護の設定の対処の必要はありません。

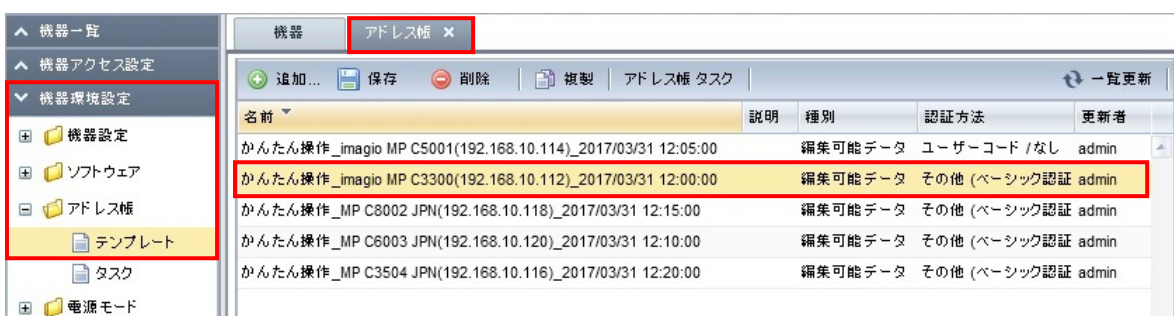
文書保護の設定が意図した設定になっていない場合、「5.5.宛先保護、文書保護設定の修正」を実施してください。

5.5. 宛先保護、文書保護設定の修正

「5.3.宛先保護設定の確認」、「5.4.文書保護設定の確認」で確認いただいた情報をもとに DMA/DML 上のアドレス帳テンプレートで宛先保護、文書保護の設定を修正します。

①DMA/DML を起動します。

②左ペインのアコーディオンメニューで「機器環境設定」-「アドレス帳」-「テンプレート」を開き、「アドレス帳」タブの中から修正するアドレス帳テンプレートを選択します。



③「アドレス情報一覧」タブを表示し、宛先保護、文書保護のアクセス制御の修正を実施するユーザー/グループを選択します。



④「認証保護」タブを表示し、「宛先保護設定アクセス制御一覧」の設定の修正をします。

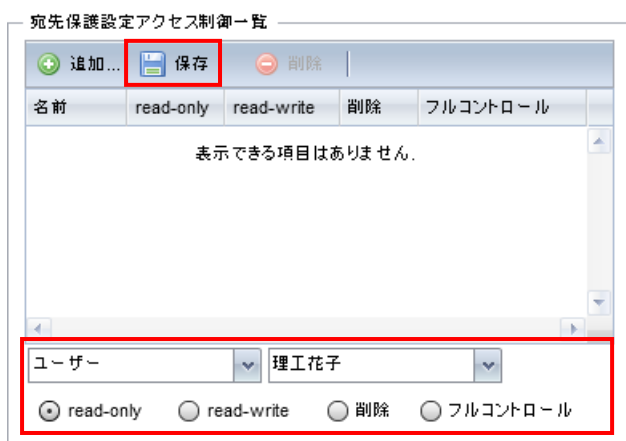
手順例 1>

[理工太郎]の「宛先保護設定アクセス制御一覧」に本来、ユーザー[理工花子]でアクセス制御[read-only]が設定されている場合、その設定を追加します。

1. 「宛先保護設定アクセス制御一覧」枠内の「追加」をクリックします。



2. プルダウンメニューで「ユーザー」、「理工花子」を選択、ラジオボタンで[read-only]を選択後、「保存」をクリックします。



3. 「宛先保護設定アクセス制御一覧」枠内にユーザー「理工花子」でアクセス制御[read-only]の設定が追加されたことを確認します。

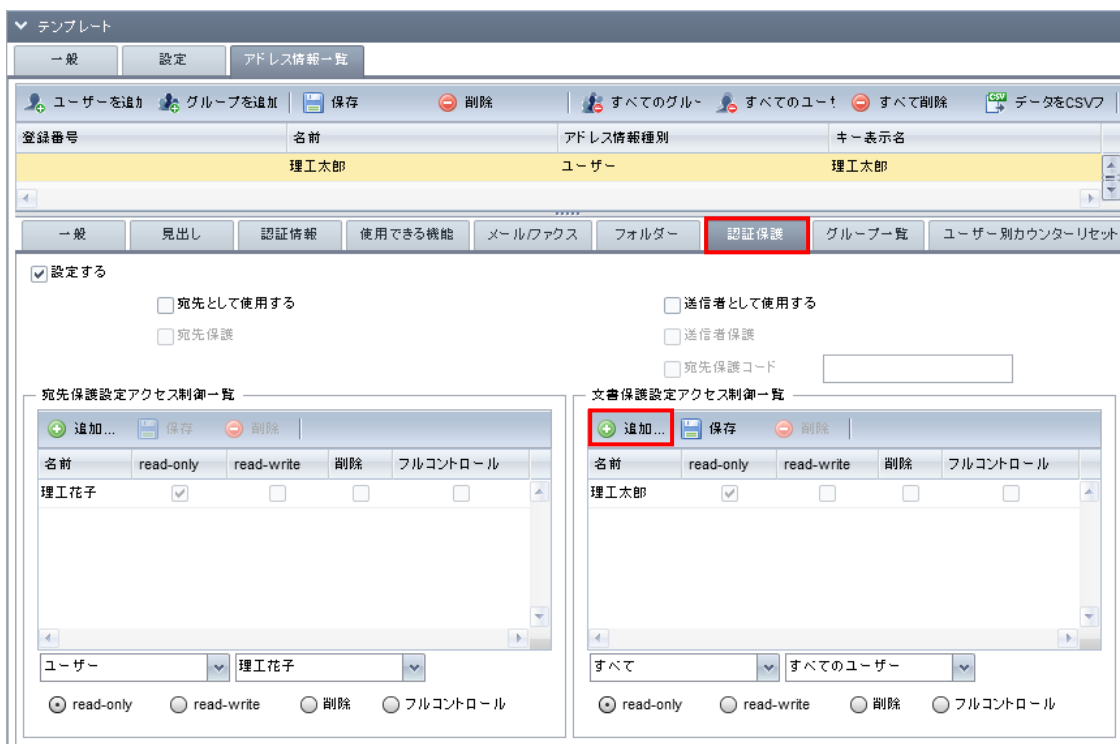


- ⑤次に「文書保護設定アクセス制御一覧」の設定の修正をします。

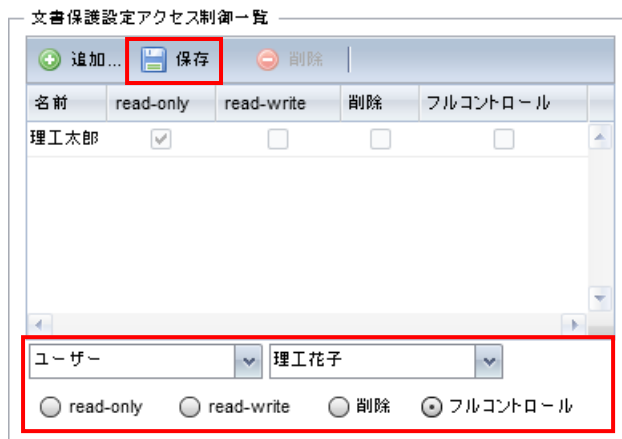
手順例 1>

[理工太郎]の「文書保護設定アクセス制御一覧」に本来、ユーザー[理工花子]でアクセス制御[フルコントロール]が設定されている場合、その設定を追加します。

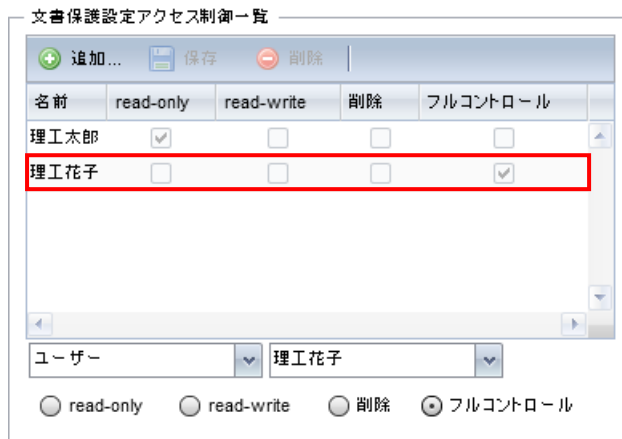
1. 「文書保護設定アクセス制御一覧」枠内「追加」をクリックします。



2. プルダウンメニューで「ユーザー」、「理工花子」を選択、ラジオボタンで[フルコントロール]を選択後、「保存」をクリックします。



3. 「文書保護設定アクセス制御一覧」枠内にユーザー「理工花子」でアクセス制御[フルコントロール]の設定が追加されたことを確認します。



4. 「手順③」で選択したユーザー/グループの宛先保護、文書保護のアクセス制御の修正が終了しましたら、「アドレス情報一覧」タブの「保存」をクリックします。

The screenshot shows the 'Address Information List' tab in the tool. The 'Save' button is highlighted in red. The interface includes a table of address information and two sub-tables for access control settings.

登録番号	名前	アドレス情報種別	キー表示名
	理工太郎	ユーザー	理工太郎

宛先保護設定アクセス制御一覧

名前	read-only	read-write	削除	フルコントロール
理工花子	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

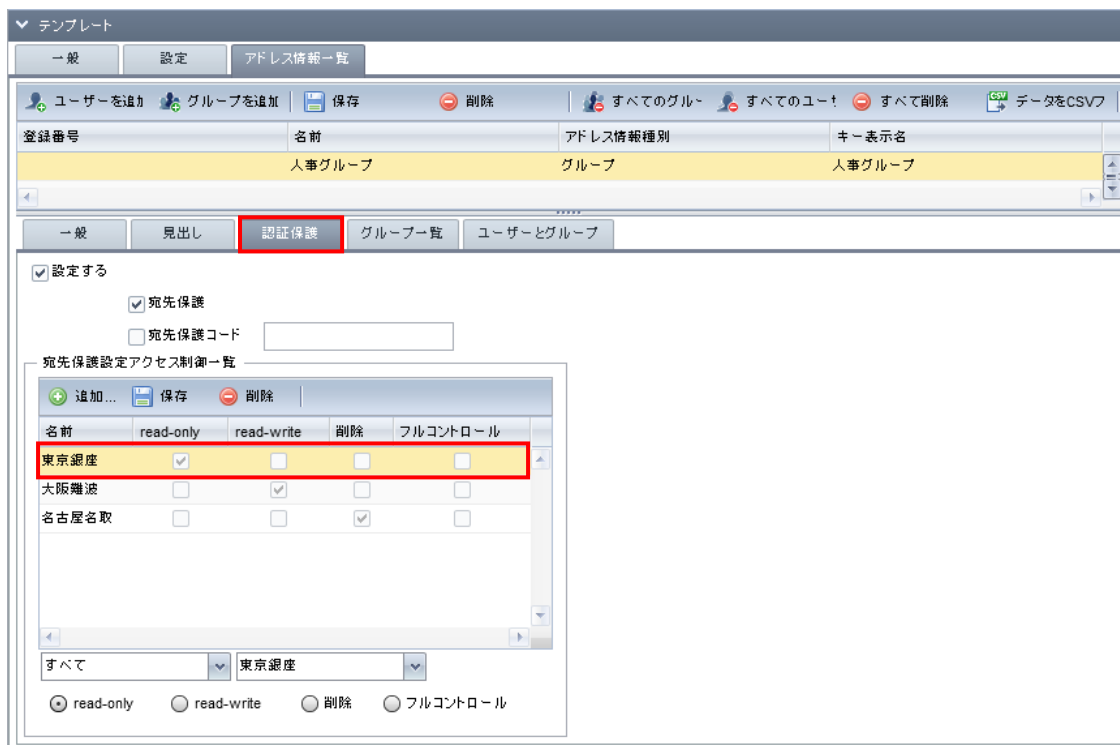
文書保護設定アクセス制御一覧

名前	read-only	read-write	削除	フルコントロール
理工太郎	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
理工花子	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

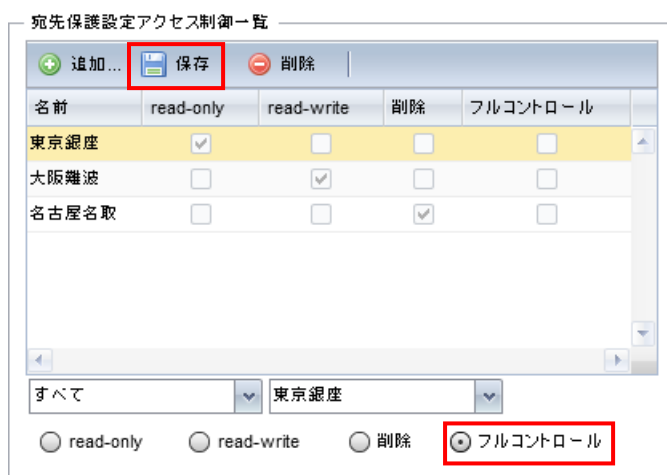
手順例 2>

[人事グループ]の「宛先保護設定アクセス制御一覧」のユーザー[東京銀座]のアクセス制御に本来[フルコントロール]が設定されている場合、その設定を変更します。

1. 「宛先保護設定アクセス制御一覧」枠内の[東京銀座]を選択します。



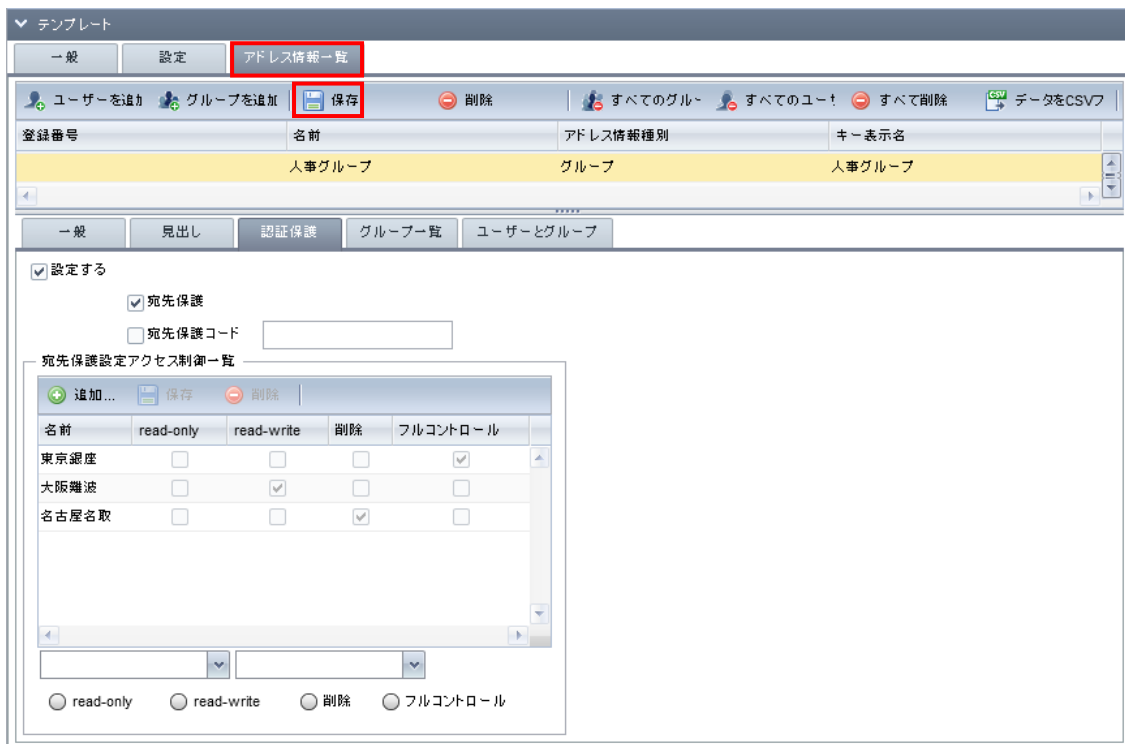
2. ラジオボタンで[フルコントロール]を選択後、「保存」をクリックします。



3. 「宛先保護設定アクセス制御一覧」枠内のユーザー「東京銀座」のアクセス制御が[フルコントロール]に変更されたことを確認します。



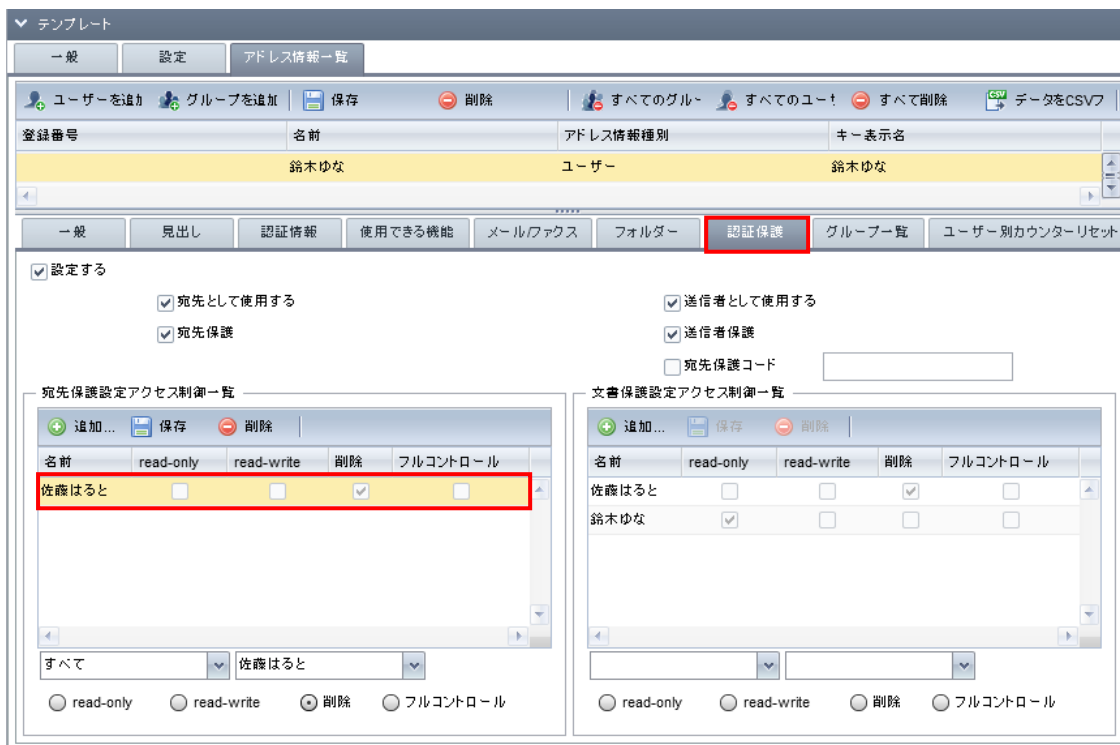
4. 「手順③」で選択したユーザー/グループの宛先保護、文書保護のアクセス制御の修正が終了しましたら、「アドレス情報一覧」タブの「保存」をクリックします。



手順例 3>

[鈴木ゆな]の「宛先保護設定アクセス制御一覧」、「文書保護設定アクセス制御一覧」に本来、ユーザー[鈴木ゆな]以外のユーザー/グループのアクセス制御の設定がされていない場合、設定されているユーザー/グループを削除します。

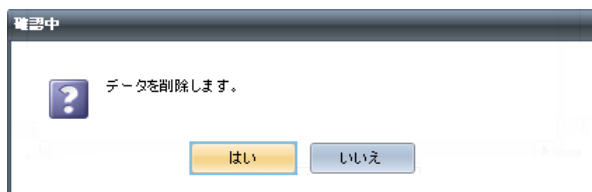
1. 「宛先保護設定アクセス制御一覧」枠内のユーザー[佐藤はると]を選択します。



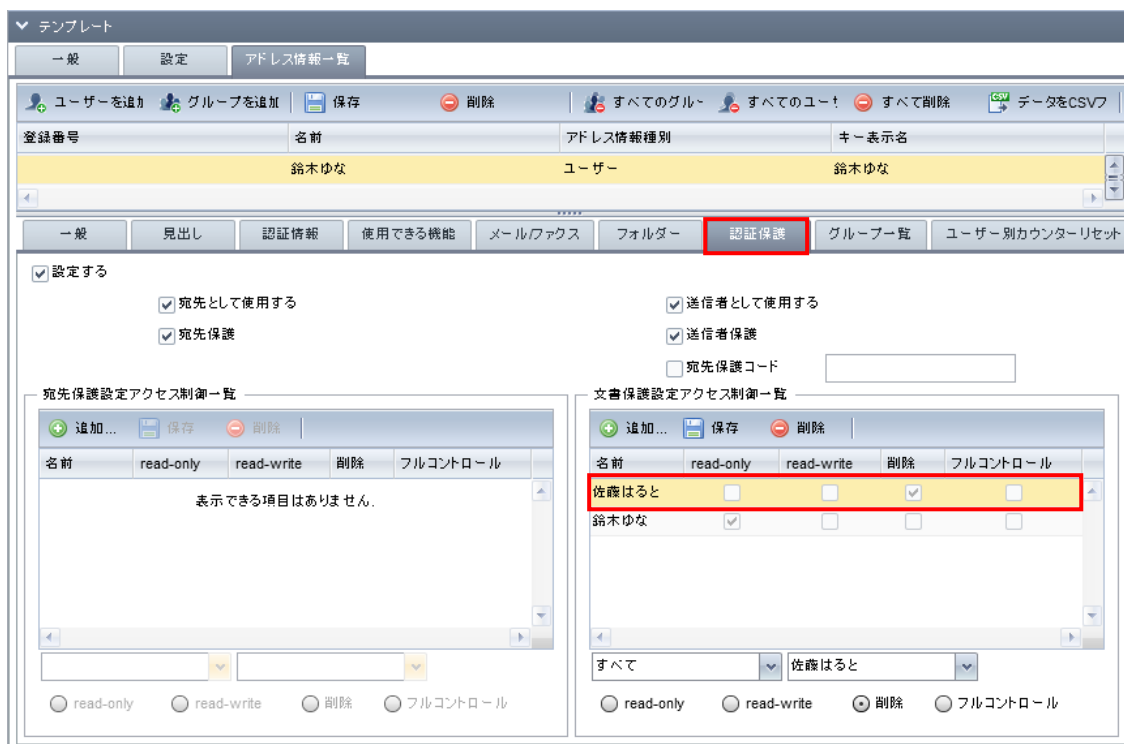
2. 「宛先保護設定アクセス制御一覧」枠内の「削除」をクリックします。



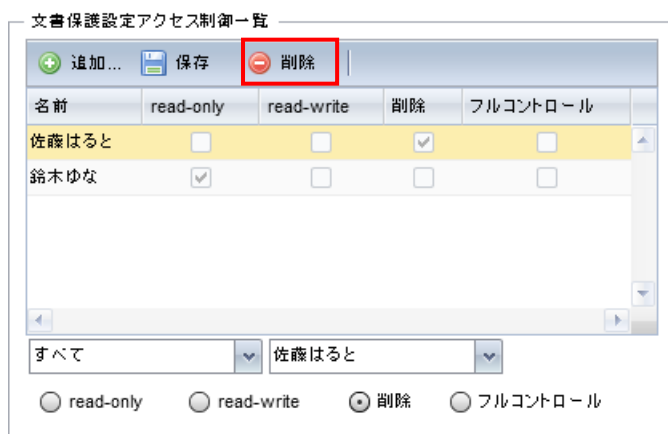
3. 「確認中」画面が表示されますので、「はい」をクリックします



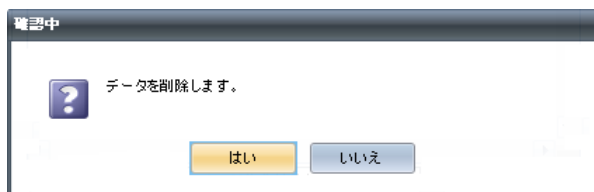
4. 「文書保護設定アクセス制御一覧」枠内のユーザー[佐藤はると]を選択します。



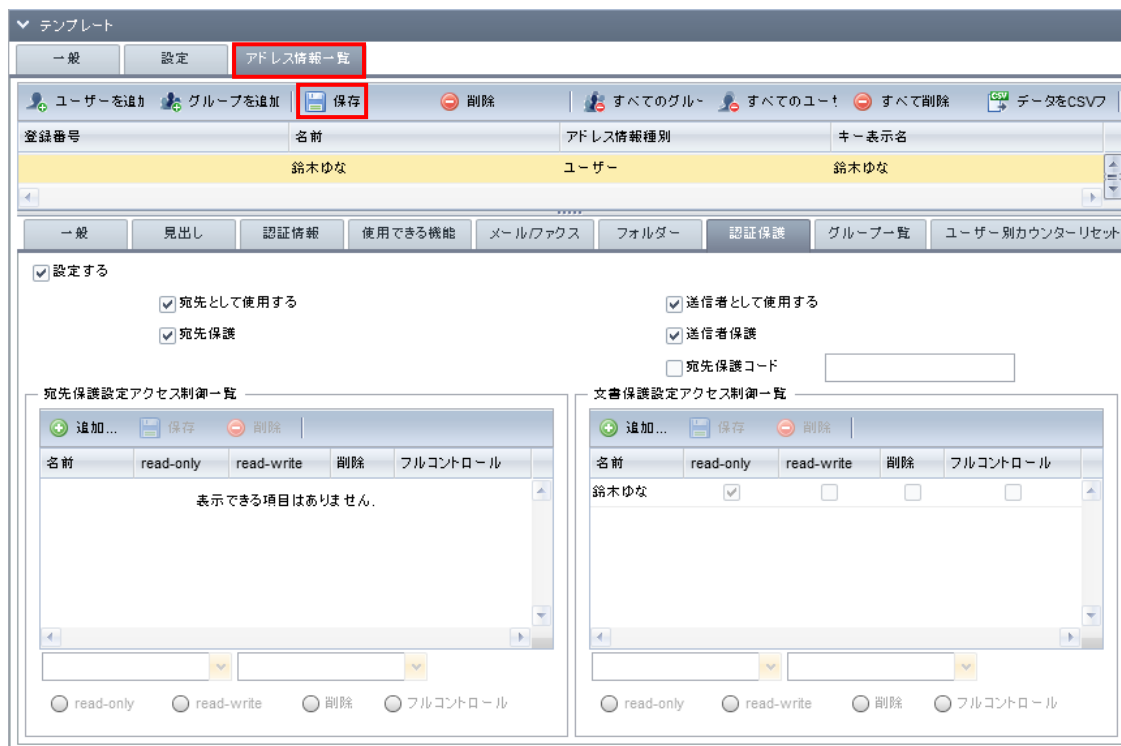
5. 「文書保護設定アクセス制御一覧」枠内の「削除」をクリックします。



6. 「確認中」画面が表示されますので、「はい」をクリックします

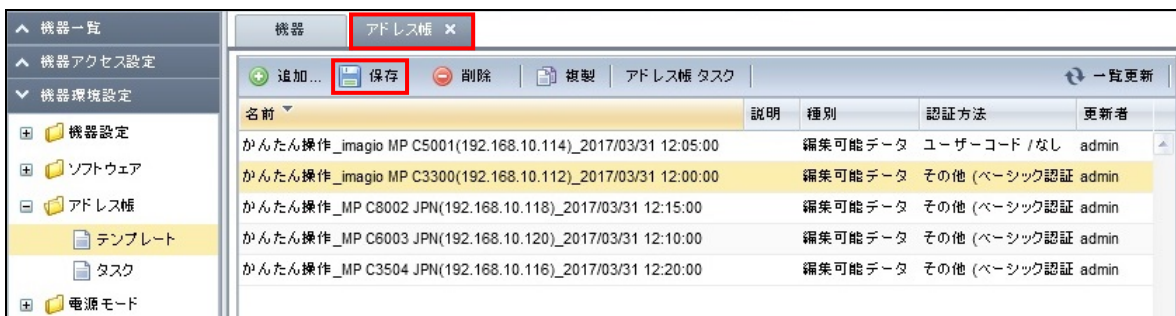


7. 「手順③」で選択したユーザー/グループの宛先保護、文書保護のアクセス制御の修正が終了しましたら、「アドレス情報一覧」タブの「保存」をクリックします。



⑥「手順③」～「手順⑤」を修正の必要なユーザー/グループに対して繰り返し実施します。

⑦「手順②」で選択したアドレス帳テンプレートの全てのユーザー/グループの修正が終了しましたら、「アドレス帳」タブの「保存」をクリックします。



⑧「手順②」～「手順⑦」を修正の必要なアドレス帳テンプレートに対して繰り返し実施します。

名前	説明	種別	認証方法	更新者
かんたん操作_imagio MP C5001(192.168.10.114)_2017/03/31 12:05:00		編集可能データ	ユーザーコード / なし	admin
かんたん操作_imagio MP C3300(192.168.10.112)_2017/03/31 12:00:00		編集可能データ	その他 (ベーシック認証)	admin
かんたん操作_MP C8002 JPN(192.168.10.118)_2017/03/31 12:15:00		編集可能データ	その他 (ベーシック認証)	admin
かんたん操作_MP C6003 JPN(192.168.10.120)_2017/03/31 12:10:00		編集可能データ	その他 (ベーシック認証)	admin
かんたん操作_MP C3504 JPN(192.168.10.116)_2017/03/31 12:20:00		編集可能データ	その他 (ベーシック認証)	admin

6. 機器へアドレス帳データを適用する

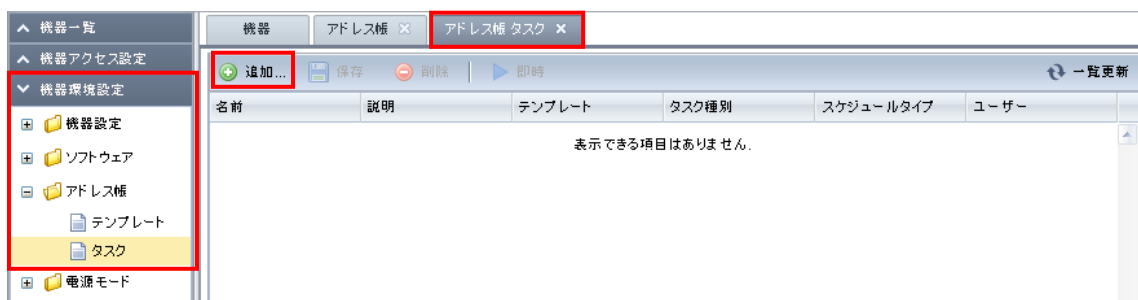
重要!!

修正したアドレス帳データを機器に適用すると、適用処理中は機器を使用できません。

また、機器へのアドレス帳データの適用時、対象機器が使用（紙詰まりなどのエラー発生含む）されていると適用に失敗する場合がありますので、対象機器が使用されていない状態の時間に実施してください。

※「スケジュール」を設定して機器へアドレス帳データの適用をおこなう場合は、DMA/DMLと機器が起動している時間帯でかつ、機器が使用されていない時間帯（たとえば夜間）で設定してください。

- ①左ペインのアコーディオンメニューで「機器環境設定」-「アドレス帳」-「タスク」を開き、「アドレス帳タスク」タブ内の「追加」をクリックします。



- ②「一般」タブを開きます。

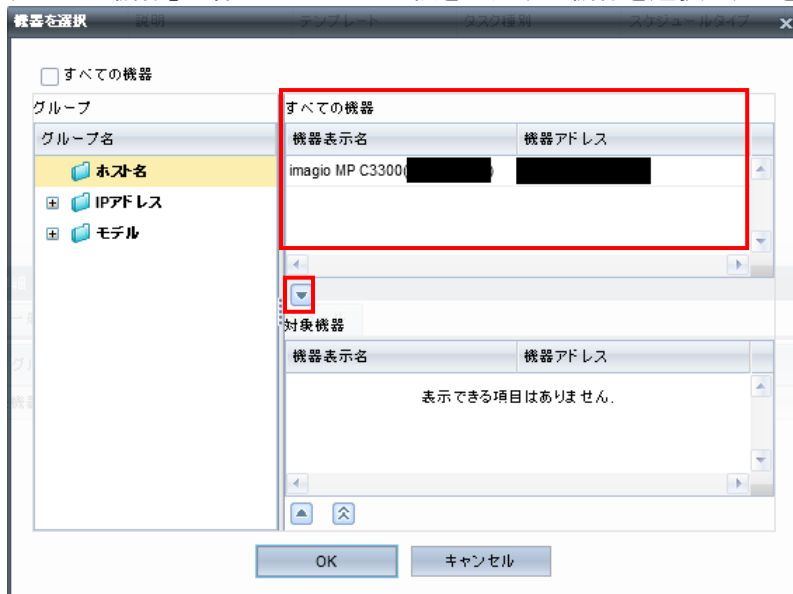
タスクの名前を入力、テンプレートのプルダウンメニューからアドレス帳テンプレートを選択、種別で適用を選択します。タスクの名前には機器へ適用するアドレス帳テンプレートが判別しやすいようにしてください。



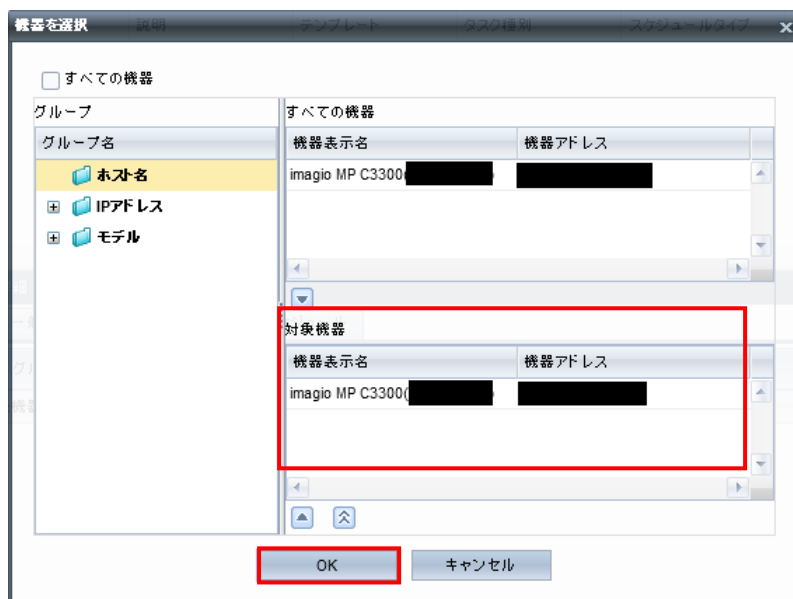
- ③「対象機器/グループ」タブを開き、「機器の追加」をクリックします。



- ④「すべての機器」の枠内からアドレス帳を適用する機器を選択し、▼をクリックします。



- ⑤「対象機器」の枠内に選択した機器が表示されたことを確認し、「OK」をクリックします。



⑥「アドレス帳タスク」タブ内の「保存」をクリックします。



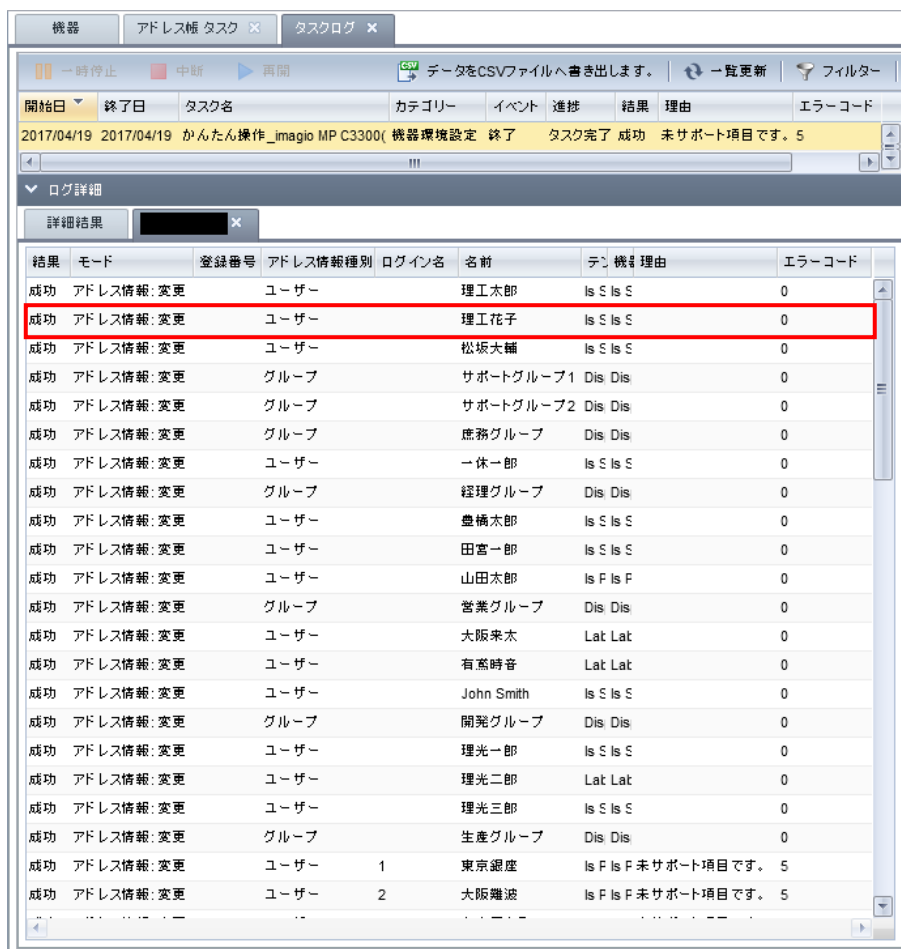
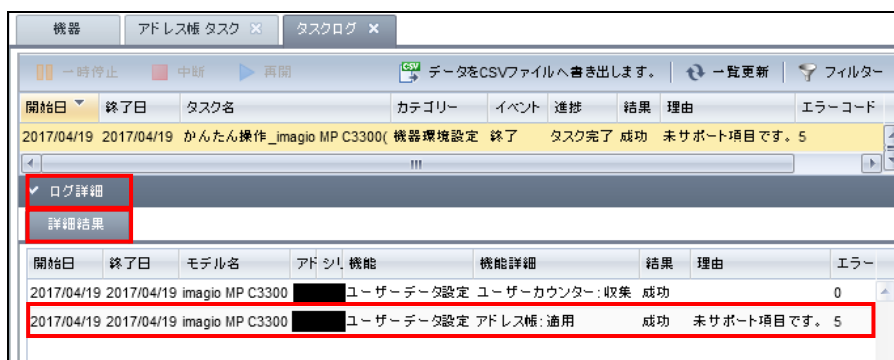
⑦「アドレス帳タスク」タブ内の「即時」をクリックすると、アドレス帳テンプレートが選択した機器に適用されます。

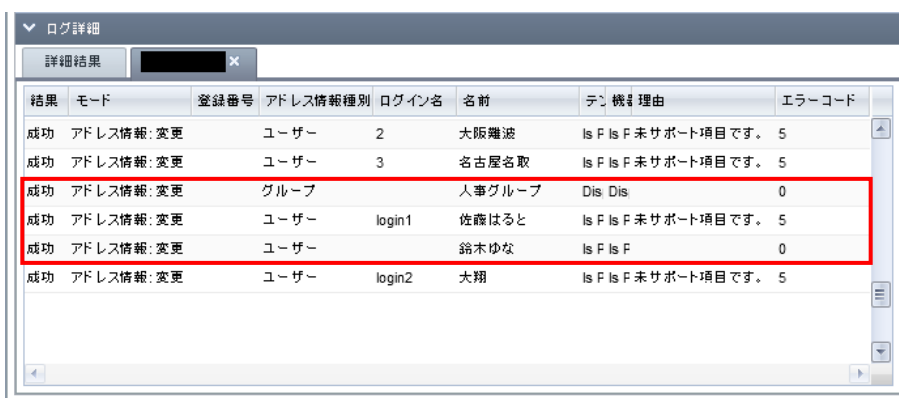


- ⑧左ペインのアコーディオンメニューで「タスク」-「タスクログ」タブを開き、実行したアドレス帳タスクを選択します。



- ⑨「ログ詳細」-「詳細結果」タブ内の「アドレス帳:適用」の結果をダブルクリックすると、ユーザー/グループごとの適用結果が表示されますので、編集したユーザー/グループの結果が成功になっていることを確認します。





結果	モード	登録番号	アドレス情報種別	ログイン名	名前	デ	機	理由	エラーコード
成功	アドレス情報:変更	ユーザー	2		大阪難波	Is	Is	F未サポート項目です。	5
成功	アドレス情報:変更	ユーザー	3		名古屋名取	Is	F	Is F未サポート項目です。	5
成功	アドレス情報:変更	グループ			人事グループ	Dis	Dis		0
成功	アドレス情報:変更	ユーザー	login1		佐藤はると	Is	F	Is F未サポート項目です。	5
成功	アドレス情報:変更	ユーザー			鈴木ゆな	Is	F	Is F	0
成功	アドレス情報:変更	ユーザー	login2		大翔	Is	F	Is F未サポート項目です。	5

★補足

アドレス帳データを機器へ適用した際、タスクログの結果は成功となっているにも関わらず、

[理由:未サポート項目です][エラーコード:5]

と表示される場合があります。

該当機器が「印刷利用量制限上限値」機能を有している機器で、かつ「印刷利用量制限上限値」機能が未使用状態であれば、仕様動作になりますので対処の必要はありません。